



2027年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年8月5日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社イチネンホールディングス

コード番号 9619 URL <https://www.ichinenhd.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 黒田 雅史

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 常務執行役員 総合企画部長 (氏名) 井本 久子 TEL 06-6309-7890

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無：有

決算説明会開催の有無：有（機関投資家、アナリスト向けWEB会議の開催を予定）

（百万円未満切捨て）

1. 2027年3月期第1四半期の連結業績（2026年4月1日～2026年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2027年3月期第1四半期	45,262	10.0	4,159	28.0	4,281	30.0	7,486	203.0
2026年3月期第1四半期	41,145	4.1	3,250	△2.8	3,292	△5.4	2,470	8.7

（注）包括利益 2027年3月期第1四半期 7,714百万円（280.9％） 2026年3月期第1四半期 2,025百万円（△0.2％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	316.17	—
2026年3月期第1四半期	104.71	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	％	円 銭
2027年3月期第1四半期	258,551	79,241	30.3	3,305.81
2026年3月期	211,603	72,145	33.8	3,021.48

（参考）自己資本 2027年3月期第1四半期 78,272百万円 2026年3月期 71,540百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	38.00	—	42.00	80.00
2027年3月期	—	—	—	—	—
2027年3月期（予想）	—	45.00	—	45.00	90.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2027年3月期の連結業績予想（2026年4月1日～2027年3月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
第2四半期（累計）	92,147	14.2	5,453	△9.8	5,136	△17.2	7,994	84.2	337.94
通期	205,071	26.4	12,235	12.0	11,342	3.1	11,903	55.5	503.17

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

連結業績予想の修正については、本日（2026年8月5日）公表いたしました「業績予想の修正および特別利益（負のれん発生益）の計上に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有

新規 7社 (社名) 太陽肥料株式会社、株式会社イチネンMA C及びその子会社2社、エムシー・ファーターコム株式会社及びその子会社2社 除外 1社 (社名) -

(注) 連結範囲の重要な変更には該当しませんが、連結子会社である日石硝子工業株式会社は、連結子会社である新生ガラス株式会社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2027年3月期1Q	23,762,227株	2026年3月期	23,762,227株
② 期末自己株式数	2027年3月期1Q	84,984株	2026年3月期	84,919株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2027年3月期1Q	23,677,287株	2026年3月期1Q	23,593,630株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.4「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(セグメント情報等の注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間(2026年4月1日～2026年6月30日)におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善する中で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復基調で推移いたしました。中東情勢や金融資本市場の変動による影響など依然として先行き不透明な状態が続いております。

このような状況の下、当社グループは「いちねんで、いちばんの毎日。」をスローガンに掲げ、最高の品質とサービスでより多くのお客様に満足をご提供し、適正な利潤の確保によりステークホルダーに報い、社会に貢献できる企業を目指しております。

基盤事業である自動車リース関連事業を中心に、ケミカル事業、パーキング事業、機械工具販売事業、合成樹脂事業、アグリソリューション事業を展開しており、これら既存事業の強化を進めながら、事業領域の枠にとらわれない新規事業への参入、規模拡大を目的とした積極的なM&A、海外展開にも挑戦しております。

なお、当第1四半期連結会計期間より、従来「農業関連事業」としていたセグメント名称を「アグリソリューション事業」に変更いたしました。本変更は、農業分野における幅広い課題解決に貢献するソリューションの提供を目指す事業の方向性をより明確に示すことを目的としたものです。なお、当該変更はセグメント名称のみの変更であり、セグメント情報に与える影響はありません。

当第1四半期連結累計期間の連結売上高は452億62百万円(対前年同期比10.0%増)、営業利益は41億59百万円(対前年同期比28.0%増)、経常利益は42億81百万円(対前年同期比30.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は74億86百万円(前年同期は24億70百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益)となりました。

各セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

また、下記のセグメント別売上高は、内部売上高消去前の金額であります。

<自動車リース関連事業>

リースにおきましては、リース契約車両は依然として小型化傾向にありますが、国内のリース車保有台数は堅調な伸びを維持しており、市場は緩やかながら拡大傾向にあります。当社グループは、地域密着のきめ細やかなサービスで競合他社との差別化を図りながら、比較的競合の少ない地方市場及び中小規模の企業をメインターゲットとして新規販売を積極的に行うとともに、既存顧客との更なる取引深耕に努めました。

これらの結果、2026年6月末現在リース契約台数は97,728台(対前期末比268台増)となり、リース契約高は132億37百万円(対前年同期比7.1%増)、リース未経過契約残高は1,073億87百万円(対前期末比2.3%増)となりました。

自動車メンテナンス受託におきましては、当社グループ独自の自動車整備工場ネットワークによる高品質なメンテナンスサービスを強みとしながら、更なる契約台数、契約残高の増加に努めた結果、メンテナンス受託契約台数80,248台(対前期末比2,267台増)となり、メンテナンス受託契約高は21億1百万円(対前年同期比14.4%増)、メンテナンス未経過契約残高は106億55百万円(対前期末比2.5%増)となりました。

燃料販売におきましては、主に自動車用燃料給油カードにおいて、低燃費車の普及により需要が減少傾向にありますが、既存顧客へのサービス向上並びに新規顧客の獲得に注力いたしました。

販売面では、リースは契約台数が順調に推移いたしました。

損益面では、主力である自動車リースの販売が増加したことに加え、リース満了車処分の販売単価が上昇したことにより利益が増加いたしました。

この結果、売上高は168億68百万円(対前年同期比4.3%増)、セグメント利益は21億22百万円(対前年同期比10.2%増)となりました。

<ケミカル事業>

ケミカル事業におきましては、住みよい地球環境と人々の暮らしの向上に貢献するべく、製品開発力の強化及び品質向上に取り組むとともに、付加価値の高い製品の販売に注力いたしました。

販売面では、中東情勢を背景とした買込み需要の影響もあり、化学品関連の自動車整備工場向けケミカル製品及び機械工具商向けケミカル製品の販売が好調に推移いたしました。また、工業薬品関連の石炭添加剤並びに一般消費者向けケミカル製品の販売も順調に推移いたしました。一方、工業薬品関連の燃料添加剤の販売は減少いたしました。

損益面では、上記要因における販売増加の影響に加え、原材料価格等の上昇を踏まえた機動的な価格改定等の収益改善策により、利益が増加いたしました。

この結果、売上高は36億12百万円(対前年同期比27.8%増)、セグメント利益は5億22百万円(前年同期は2億46百万円のセグメント利益)となりました。

<パーキング事業>

パーキング事業におきましては、安全・安心・清潔で利用しやすい駐車場をお客様にご提供するべく、「One Park」のブランド名でコインパーキングや来客用駐車場を全国に展開しているほか、病院や官公庁及び商業施設に附帯する駐車場の運営管理も行っております。中長期的に安定した収益基盤を築くため、更なる駐車場数の拡大に努めた結果、2026年6月末現在駐車場管理件数は2,027件（対前期末比26件増）、管理台数は38,121台（対前期末比408台増）となりました。

販売面では、新規駐車場の開発が順調に進み、また、既存駐車場の継続的な収益改善活動の効果もあり、販売が増加いたしました。

損益面では、販売増加の影響により利益が増加いたしました。

この結果、売上高は20億81百万円（対前年同期比4.7%増）、セグメント利益は3億66百万円（対前年同期比7.3%増）となりました。

<機械工具販売事業>

機械工具販売事業におきましては、プロ向けや個人向けの各種工具類、自動車部品、産業・建設機械部品など幅広い商材を取り扱っており、自社でインターネット通販も展開しております。更なる事業規模の拡大並びに収益性の向上を実現させるため、取扱アイテムの拡充、自社オリジナル製品の開発・販売の強化、商品調達コスト及び物流コストの低減に努めました。

販売面では、自動車部品及び産業資材、空調工具及び計測工具並びに建設機械部品の販売は順調に推移いたしました。一方、産業機械部品及びDIY用品等の販売は減少いたしました。

損益面では、上記要因における販売増加の影響により利益が増加いたしました。

この結果、売上高は100億75百万円（対前年同期比6.2%増）、セグメント利益は2億93百万円（前年同期は1億36百万円のセグメント利益）となりました。

<合成樹脂事業>

合成樹脂事業におきましては、遊技機部品の製造・販売を行う主力の遊技機部品事業や、自動車用内外装部品の製造・販売事業を中心に、新規案件の受注拡大及び新商品の開発を図り、同時に品質改善にも努めてまいりました。

販売面では、遊技機メーカーへの合成樹脂製品の販売は減少いたしました。また、タイにおける自動車市場の低迷を背景に、自動車用内外装部品の販売は低調に推移いたしました。一方で、半導体実装装置メーカー等へのセラミックヒーターの販売は順調に推移いたしました。

損益面では、上記の販売動向により、利益が増加いたしました。

この結果、売上高は46億86百万円（対前年同期比3.1%減）、セグメント利益は2百万円（前年同期は33百万円のセグメント損失）となりました。

<アグリソリューション事業>

アグリソリューション事業におきましては、主力である肥料の製造・販売事業を中心に、生産技術の改善・効率化や、肥料製品の安定供給に取り組んでまいりました。

また、自社農場での農作物生産については、栽培ノウハウの蓄積を進めるとともに、新しい販路の開拓及び6次産業化に向けた検討・研究等、収益化に向けた取り組みを行ってまいりました。

販売面では、中東情勢不安による秋肥需要の前倒しの影響もあり、肥料製品の販売は順調に推移いたしました。また、農作物の販売数量は減少したものの、販売単価は上昇いたしました。加えて、当第1四半期連結会計期間に新たに連結子会社となった太陽肥料株式会社の業績が販売の増加に寄与いたしました。

損益面では、上記要因による肥料製品の販売数量の増加に加え、新規連結した太陽肥料株式会社の業績が寄与し、利益は増加いたしました。

この結果、売上高は77億59百万円（対前年同期比39.7%増）、セグメント利益は8億59百万円（対前年同期比43.3%増）となりました。

<その他>

その他事業のガラス加工事業におきましては、新規顧客の拡大や新たな市場開拓を図るとともに、品質向上に取り組んでまいりました。

販売面では、ガラス製品の販売が減少いたしました。

損益面では、上記要因における販売減少の影響により利益が減少いたしました。

この結果、売上高は5億28百万円（対前年同期比4.9%減）、セグメント損失は2百万円（前年同期は29百万円のセグメント利益）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

＜資産、負債及び純資産の状況＞

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は2,585億51百万円となり、前連結会計年度末残高2,116億3百万円と比べて469億47百万円増加いたしました。これは棚卸資産の増加等によるものであります。

負債合計は1,793億9百万円となり、前連結会計年度末残高1,394億58百万円と比べて398億51百万円増加いたしました。これは借入金の増加等によるものであります。

純資産合計は792億41百万円となり、前連結会計年度末残高721億45百万円と比べて70億96百万円増加いたしました。これは利益剰余金の増加等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、本日（2026年8月5日）公表の「業績予想の修正および特別利益（負ののれん発生益）の計上に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,644	17,245
受取手形、売掛金及び契約資産	20,867	31,076
電子記録債権	2,604	8,537
リース・メンテナンス未収入金	2,767	2,940
リース債権及びリース投資資産	33,685	34,709
商品及び製品	14,467	26,725
仕掛品	1,711	2,170
原材料及び貯蔵品	6,055	7,416
前払費用	2,707	4,466
その他	2,325	2,613
貸倒引当金	△10	△16
流動資産合計	97,826	137,885
固定資産		
有形固定資産		
賃貸資産	159,620	159,999
減価償却累計額	△95,673	△96,287
賃貸資産（純額）	63,946	63,711
土地	17,921	20,265
その他	54,555	73,929
減価償却累計額	△35,932	△52,467
その他（純額）	18,622	21,461
有形固定資産合計	100,491	105,438
無形固定資産		
その他	858	1,052
無形固定資産合計	858	1,052
投資その他の資産		
投資有価証券	6,824	7,350
長期前払費用	1,796	1,878
繰延税金資産	1,254	2,105
その他	2,578	2,874
貸倒引当金	△112	△112
投資その他の資産合計	12,341	14,096
固定資産合計	113,690	120,588
繰延資産	86	76
資産合計	211,603	258,551

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	15,793	24,860
電子記録債務	4,594	5,082
短期借入金	4,500	26,530
コマーシャル・ペーパー	1,000	1,000
1年内償還予定の社債	15,200	15,200
1年内返済予定の長期借入金	18,738	19,371
リース債務	49	47
未払法人税等	2,613	1,787
リース・メンテナンス前受金	568	522
賞与引当金	1,158	2,181
品質保証引当金	17	16
その他	3,651	5,519
流動負債合計	67,884	102,118
固定負債		
社債	18,600	18,600
長期借入金	48,885	53,012
リース債務	139	132
退職給付に係る負債	2,080	2,606
役員退職慰労引当金	190	199
資産除去債務	690	832
その他	988	1,807
固定負債合計	71,574	77,191
負債合計	139,458	179,309
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,529	2,529
資本剰余金	1,805	1,805
利益剰余金	64,127	70,619
自己株式	△128	△129
株主資本合計	68,332	74,824
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,173	2,423
繰延ヘッジ損益	2	25
為替換算調整勘定	717	631
退職給付に係る調整累計額	313	367
その他の包括利益累計額合計	3,207	3,448
非支配株主持分	604	968
純資産合計	72,145	79,241
負債純資産合計	211,603	258,551

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
売上高	41,145	45,262
売上原価	32,007	35,039
売上総利益	9,138	10,222
販売費及び一般管理費		
役員報酬	340	316
給料手当及び賞与	1,849	1,971
賞与引当金繰入額	459	463
退職給付費用	84	55
役員退職慰労引当金繰入額	7	9
貸倒引当金繰入額	27	0
品質保証引当金繰入額	△2	△1
のれん償却額	54	—
その他	3,066	3,248
販売費及び一般管理費合計	5,888	6,063
営業利益	3,250	4,159
営業外収益		
受取配当金	59	63
仕入割引	11	13
為替差益	—	26
助成金収入	69	61
その他	85	94
営業外収益合計	225	259
営業外費用		
支払利息	65	98
支払手数料	20	20
為替差損	19	—
持分法による投資損失	60	0
その他	16	17
営業外費用合計	183	136
経常利益	3,292	4,281
特別利益		
固定資産売却益	0	7
投資有価証券売却益	517	—
新株予約権戻入益	4	—
負ののれん発生益	—	4,720
特別利益合計	522	4,728
特別損失		
固定資産除売却損	18	33
段階取得に係る差損	—	24
特別損失合計	18	58
税金等調整前四半期純利益	3,795	8,951
法人税、住民税及び事業税	1,440	1,604
法人税等調整額	△118	△135
法人税等合計	1,321	1,468
四半期純利益	2,473	7,482
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	3	△3
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,470	7,486

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
四半期純利益	2,473	7,482
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△264	250
繰延ヘッジ損益	2	22
為替換算調整勘定	△111	△95
退職給付に係る調整額	△75	53
その他の包括利益合計	△448	231
四半期包括利益	2,025	7,714
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,041	7,726
非支配株主に係る四半期包括利益	△15	△12

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

Ⅰ 前第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント							その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注3)
	自動車 リース関連 事業	ケミカル 事業	パーキング 事業	機械工具 販売事業	合成樹脂 事業	アグリソリ ューション 事業	計				
売上高											
外部顧客への売上高	16,114	2,642	1,988	9,458	4,832	5,553	40,589	556	41,145	—	41,145
セグメント間の内部売上高又は振替高	54	183	—	26	2	0	266	0	266	△266	—
計	16,168	2,825	1,988	9,485	4,834	5,553	40,855	556	41,412	△266	41,145
セグメント利益又は損失(△)	1,926	246	341	136	△33	599	3,216	29	3,245	4	3,250

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ガラス加工製品の製造販売、不動産の賃貸及び管理等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント							その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注3)
	自動車 リース関連 事業	ケミカル 事業	パーキング 事業	機械工具 販売事業	合成樹脂 事業	アグリソリ ューション 事業	計				
売上高											
外部顧客への売上高	16,811	3,346	2,081	10,048	4,685	7,759	44,733	528	45,262	—	45,262
セグメント間の内部売上高又は振替高	57	266	—	27	0	0	352	0	352	△352	—
計	16,868	3,612	2,081	10,075	4,686	7,759	45,085	528	45,614	△352	45,262
セグメント利益又は損失(△)	2,122	522	366	293	2	859	4,167	△2	4,165	△6	4,159

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ガラス加工製品の製造販売、不動産の賃貸及び管理等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの名称の変更)

当第1四半期連結会計期間より、従来「農業関連事業」というセグメント名称で表記している同事業について、「アグリソリューション事業」に名称変更いたしました。なお、当該変更は名称変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報についても変更後の名称で記載しております。

3. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第1四半期連結会計期間において、太陽肥料株式会社及び三菱商事アグリサービス株式会社（現：株式会社イチネンMAC）並びにエムシー・ファーターティコム株式会社の株式を取得し子会社化したことに伴い、太陽肥料株式会社及び三菱商事アグリサービス株式会社（現：株式会社イチネンMAC）、その子会社2社並びにエムシー・ファーターティコム株式会社、その子会社2社を連結の範囲に含めております。

これにより、前連結会計年度の末日に比べ、当第1四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「アグリソリューション事業」において38,317百万円増加しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（重要な負ののれん発生益）

アグリソリューション事業セグメントにおいて、太陽肥料株式会社及び三菱商事アグリサービス株式会社（現：株式会社イチネンMAC）並びにエムシー・ファーターティコム株式会社の株式を取得し子会社化したことに伴い、負ののれん発生益を特別利益に4,720百万円計上しております。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	4,697百万円	4,863百万円
のれんの償却額	54	—